

# 4.1 温井ダムの目的



アーチ式コンクリートダム  
 堤高: 156m  
 総貯水容量: 82,000千m<sup>3</sup>  
 洪水調節容量: 41,000千m<sup>3</sup>  
 利水容量: 38,000千m<sup>3</sup>  
 平成14年3月完成

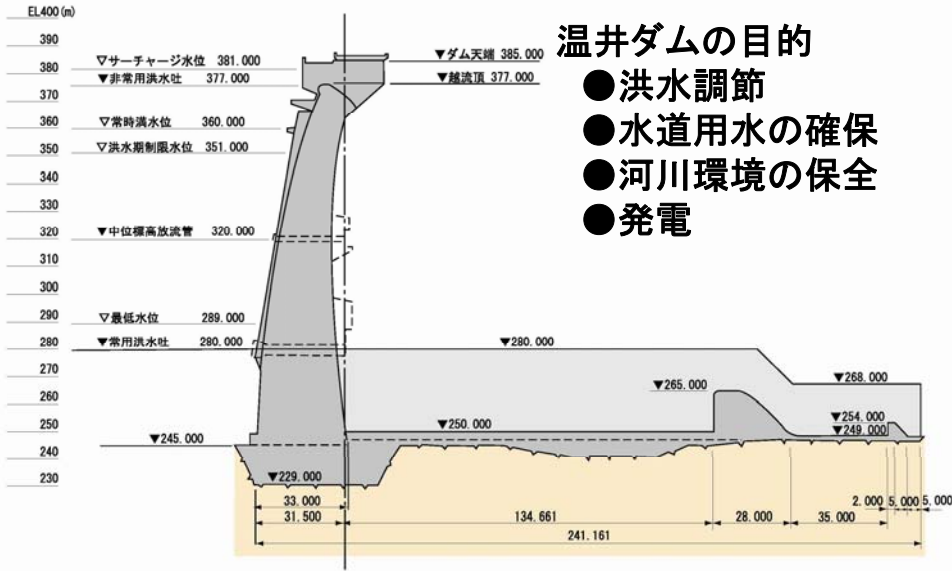


温井ダム

撮影日: 平成13年1月28日

- ・太田川水系としては唯一の多目的式ダム
- ・ダム高156mはアーチ形式のダムとして日本第2位

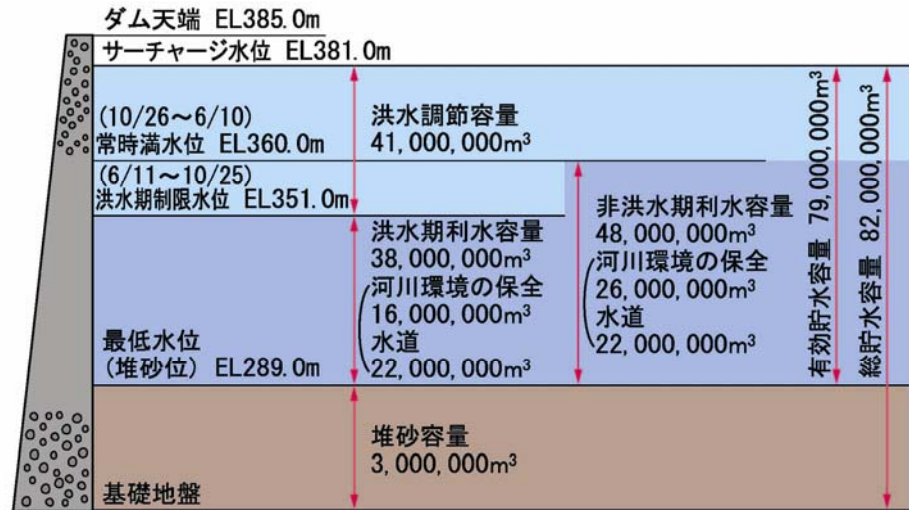
## ●標準断面図



### 温井ダムの目的

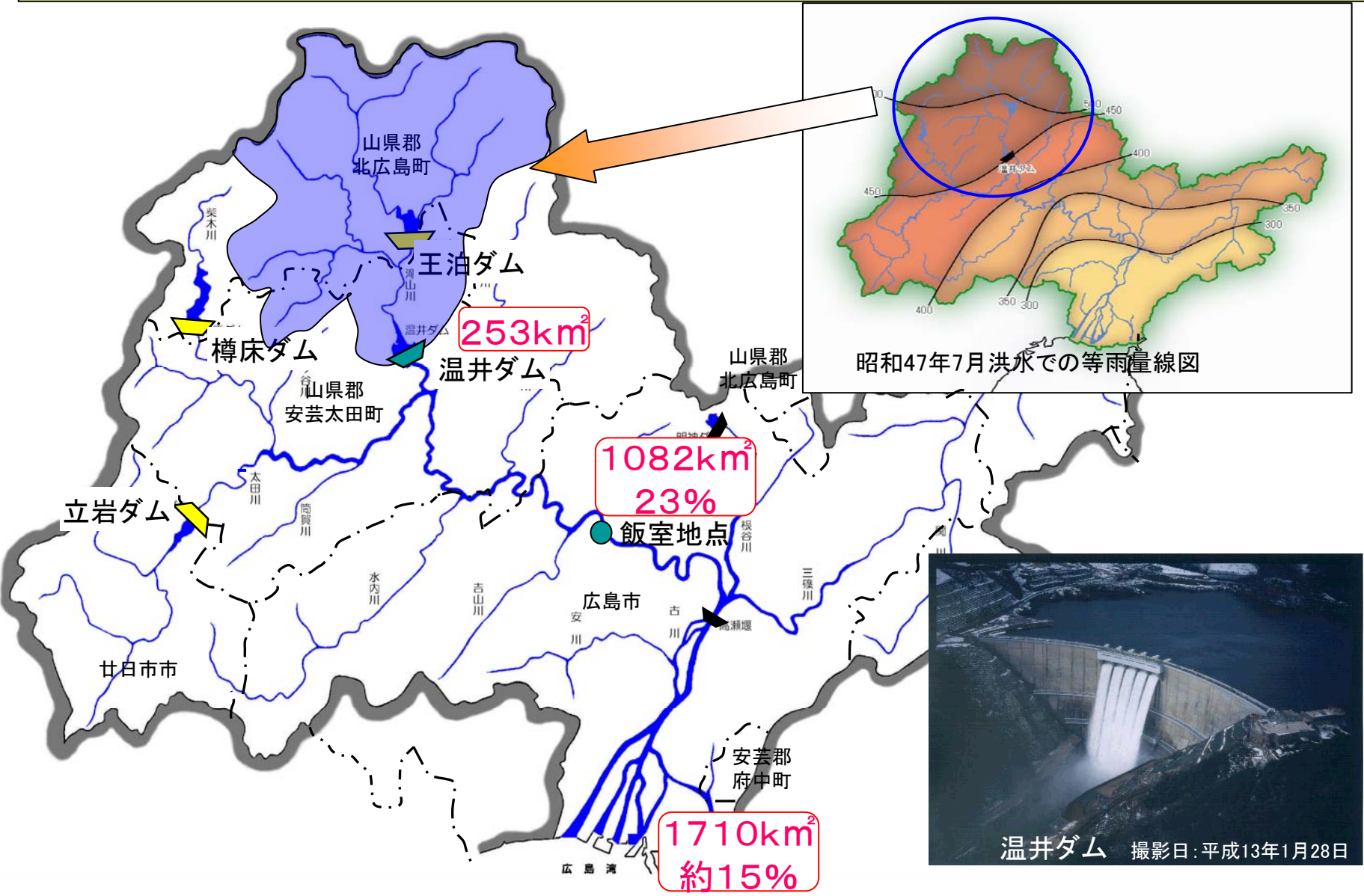
- 洪水調節
- 水道用水の確保
- 河川環境の保全
- 発電

## ●貯水池容量配分図



# 4.2 集水面積と位置

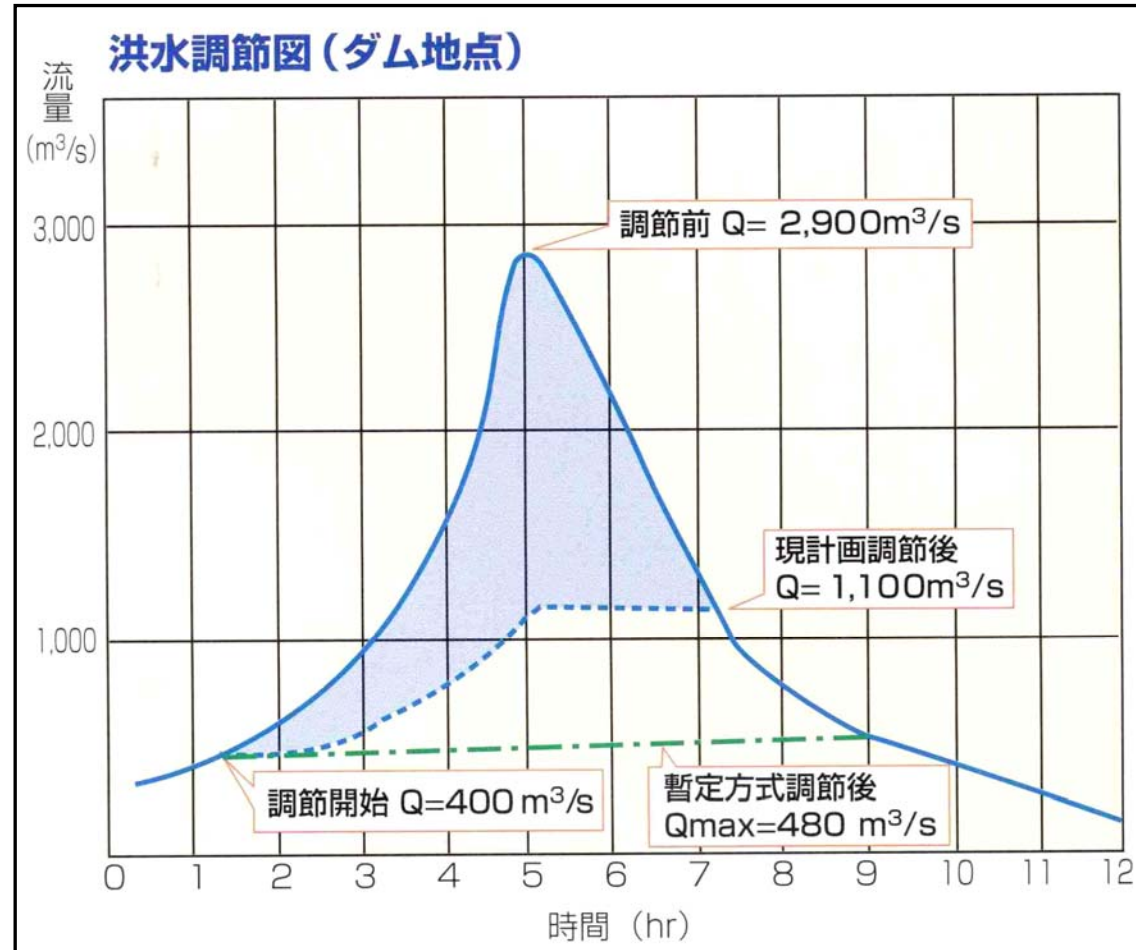
- ・温井ダム集水エリアは流域の北側に位置
- ・昭和47年7月洪水では滝山川流域で多量の雨
- ・温井ダム集水面積は253km<sup>2</sup>、飯室地点上流域面積に占める割合は約23%であり、全体流域に占める割合は約15%



# 4.3 洪水調節方法(1)

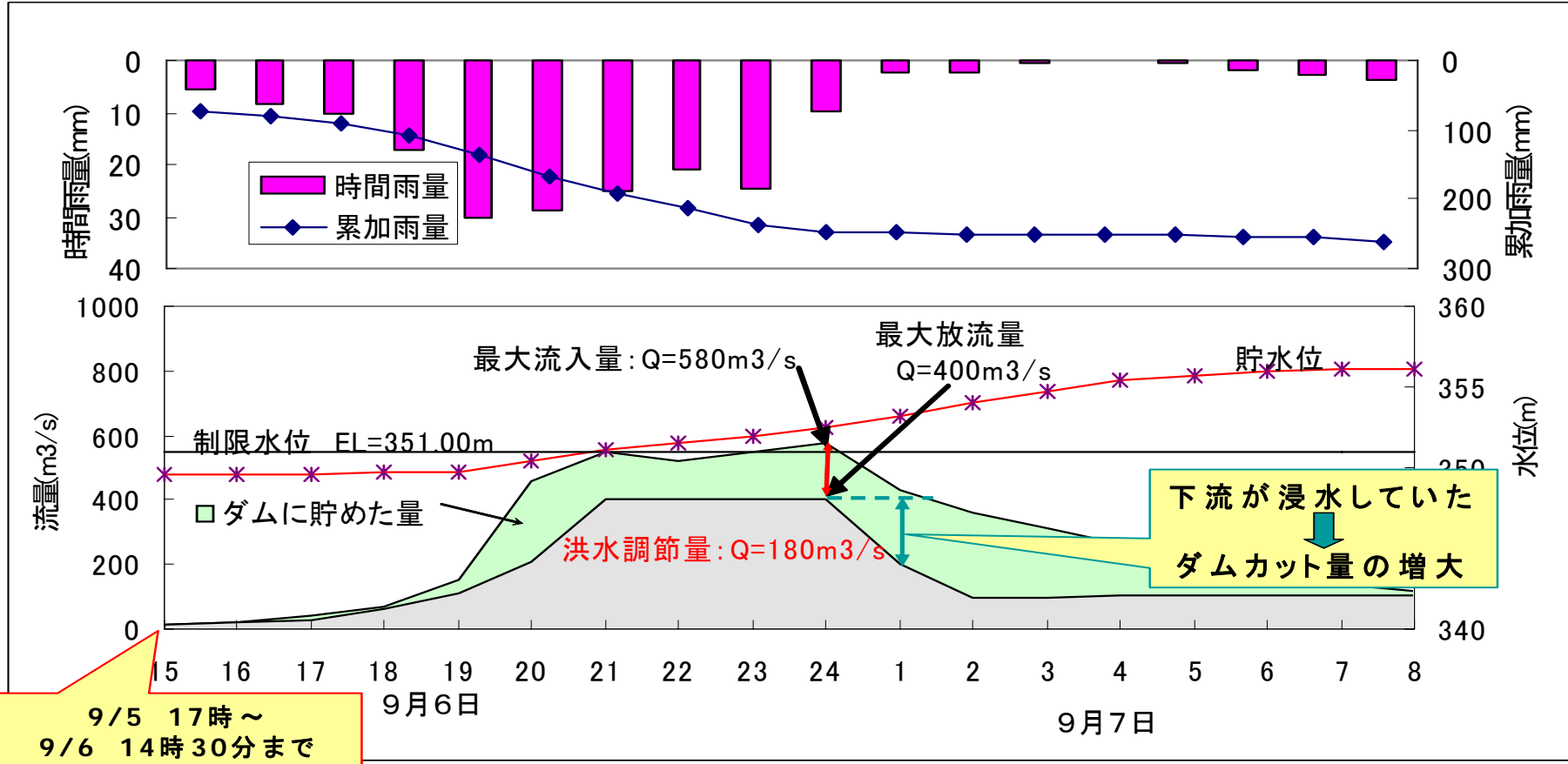
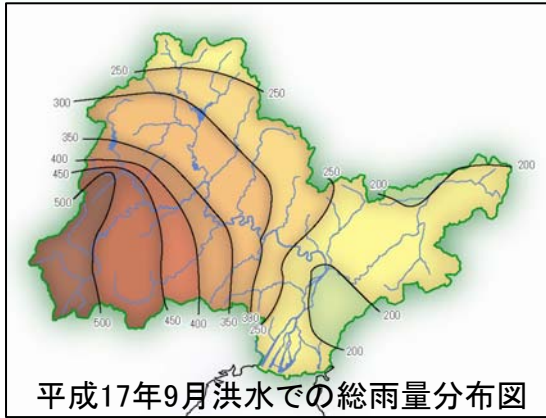
○温井ダムは、1/200の洪水に対応するため、ダム地点における計画高水流量 $2900\text{m}^3/\text{s}$ のうち $1800\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行うこととなっています。

○現時点では河道の整備は途上にあるため、温井ダムでは、河道の整備状況を踏まえて、洪水調節効果が最大限に発揮できるように $400\text{m}^3/\text{s}$ の際のゲート開度を一定にした暫定調節(最大放流 $480\text{m}^3/\text{s}$ )を行います。



# 4.4 洪水調節方法(2)

- ・平成17年9月洪水では太田川本川上流域で多量の雨
- ・昭和47年7月洪水では温井ダム上流の王泊ダム地点ピーク流量は約1,560m<sup>3</sup>/s(温井ダムパンフレットより)
- ・平成17年9月洪水では温井ダム地点ピーク流量は約580m<sup>3</sup>/s  
⇒ 温井ダムによる洪水調節効果が少なかった



# 4.5 平成17年6月渇水におけるダムの効果

